

大規模噴火からよみがえった天然林

あさまやま
浅間山
生物群集保護林

設定目的

浅間山（二、五六八㍎）は現在も活発な火山活動を続けており、江戸時代の天明大噴火（一七八三年）では三日間にわたる噴火で大災害が発生しました。

その後の時間の経過とともに再生したカラマツ、アカマツ、ウラジロモミ、ダケカンバ等からなる天然林とともに、林内にはレンゲツツジ、スズラン、ヤナギラン等の高山植物群落が見られます。

浅間山の火山活動による特異な地理・地形に生育するこれらの植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

典型的な内陸性気候で、夏季は昼夜の気温差が大きく、冬季は寒さが厳しい環境に置かれています。

本保護林とその周辺には溶岩流跡など、火山活動によって形成された多種多様な地形が見られます。

山麓の森林には、天然記念物に指定されているイヌワシやヤマネ、カモシカをはじめ、様々な野生動物が生息しています。

シリーズ

中部の保護林(第17回)

所在地
長野県小諸市、北佐久郡



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生動物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生動物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。